令和８年第２回芸西村議会定例会　一般質問通告一覧表

一般質問（第２日）：令和８年６月11日（木）

Ｎｏ．１

質問者	質問の件名	質問の要旨	答弁を求める者
坂本　史	特定公共賃貸住宅の整備拡充は	村営住宅は、住宅に困窮している者、所得が一定の基準を超えていない者などの要件に該当する住宅は87戸ある。 また、所得が中位にある者で住宅を必要とする者のうち同居又は同居しようとする親族がある者の要件に該当する住宅は26戸ある。安価な家賃が設定されている村営住宅に入居する者が収入超過者となることで要件に該当しなくなった場合は、家賃が高額となる。つまり、現住している住宅に高額な家賃を払って住み続けるのか、民間住宅に転居するのかなどの選択が必要となる。 そこで、①村営住宅の収入超過は何世帯あるのか、②最大家賃はいくらか、③村営住宅以外の住居確保制度はあるのか問う。 さらに、所得が中位となった者（中間所得層）に対して村内での居住を確保する一つとして特定公共賃貸住宅の整備拡充は必要ではないか問う。	村　長
安岡 公子	フレイル予防今後の取り組みは	昨年11月にフレイルサポーター養成講座が行われ、本村においてフレイルサポーターが誕生し活動が始まっている。フレイル予防にはトレーニングと食事で筋肉の減少を抑えることが大切で、体操教室の取り組みが必要だと考えるが、今後どのような取り組みを計画しているのか。	村　長
	部落会の活性化は	・部落会活動の低下が懸念される。災害時の共助の在り方の危機感にもつながると考えるが、対策をとるべきではないか。 ・移住してきた世帯と部落長をつなぐ取り組みが必要ではないか。	村　長
	放課後児童クラブの時間延長は	村外へ通勤している人で、現在の放課後児童クラブの終了時間は18時までのため迎えが間に合わないという声がある。高規格道路延伸により通勤圏が広くなったことで、本村への移住を考える人も出てくると考えるが、時間延長が必要ではないか。	教育長
山本 俊二	移住促進の一環として空き家対策はどうするか	空き家が多いのになぜ貸家はないのか。 空き家の片付け費用や労力が負担となっているのではないか。移住者の居住用リホーム費用の補助はあるが片付け費用の助成は無い。持ち主の負担が解消できれば移住者用の貸家にしてもらえるのではないか。 若者が住むところが無いのか村外に出ているようだが、そんな人たちも貸家があれば利用するのではないか。 全国で空き家窃盗が急増しており四国が特に多い現状がある。空き家対策が急務だと思われる。 今後、移住促進としての空き家対策は、どのように考え取り組んでいくか問う。	村　長
岡村 俊彰	生活支援地域振興券の配布について	３月中旬以降から、順次発送されると通知のあった生活支援地域振興券だが、村内の地域により配布の時期が、早い地域は３月下旬頃で遅い地域は４月中旬を過ぎた地域もあるようだ。 このような住民サービスは、住んでいる地域によって格差が生じるのは好ましくないと思うが、今回の配布期間の遅延の原因と、今後の対策を問う。	村　長
	旧西分ふれあいセンターの今後の有効活用について	今年の３月いっぱいで、第２香南くろしお園げいせい分園が撤退したが、元々は西分地域の高齢者が通っていた西分ふれあいセンターだった。旧西分小学校の校舎で歴史的価値も高く、地域の住民からは歩いて行ける近くで集える場所が欲しいとも聞く。 この施設の今後の有効活用について問う。	村　長

質問者	質問の件名	質問の要旨	答弁を求める者
西笛　千代子	ポータルサイトを活用した人口減少対策について	・減少を止めるにはＩターン、Ｕターンを考える人たちを芸西村に興味を持ってもらうことも重要ではないか。 ・高知県ＵＩターンサポートセンターが運営している「いこうち！」を活用して、関係人口を増やしていくのはどうか。 ・現在、村は手厚い子育て支援策をＳＮＳ等で広報しているが、関係人口を増やしていくことも大事だと考えるが、ポータルサイトを活用した村の人口減少対策についての考えを聞く。	村　長
	ダムの周辺整備について	・「いこうち！」で村外の人たちを募り、村民と共に、植樹をすることができるのではないかと考え、関係人口を増やしていくことにもつながると思うが、遊歩道や駐車場周辺の植樹についてを聞く。 ・現在、駐車場は完成しているようだが、周遊コースの整備は進んでいない。周辺整備の進捗状況と、今後の整備計画についてを聞く。	村　長
仙頭　一貴	大規模災害の対応は	災害対応は、行政の責任である。通常時から防災計画に基づいて行っている内容を聞く。 なかでも、災害対策本部は災害の対策の基本であるが、災害対策本部の設置訓練などはどのような内容で行っているのか。 また、災害対策本部に属する関係機関の能力が発揮できる確認はできているか。	村　長
濱田　圭介	いきづらさを抱える人への就労支援について	いきづらさを抱える人への支援については、多様な機関との連携により積極的に行われていると聞いているが、その人が自立した日常生活、社会生活を営むことができるようになるためには就労支援は重要と考える。 いきづらさを抱える人は一般就労が難しいことから、本人の意向や適性等に踏まえた就労の機会を提供することが就労支援の第一歩となる。本村においても個人事業主や法人がその人を受け入れ、本人の適性等に寄り添った支援を行っている。また、障がい者就労支援事業所でもその人を受け入れ、本人に寄り添った支援をしていると聞いている。 しかしながら、受け入れをしている個人事業主や事業所には給付金等の公的支援はなく、それぞれの経営の中から賃金等の費用を捻出している現状がある。これらの現状を踏まえ、村としても何らかの対応が必要ではないか聞く。	村　長
岡村　星弥	街灯整備と生活インフラの充実について	・過去４年間における村内街灯の増設実績および整備の優先順位について問う。 ・人感センサー等の最新技術を活用し、ビニールハウスなどの農作物への影響に配慮しつつ、村内の「暗がり」や「安全の空白地帯」を解消するための今後の具体的な整備方針および生活インフラ充実についての見解を問う。	村　長
	将来につながる実践的な教育環境の充実と教育ブランドの確立について	・教育長が掲げる「元気で輝く人づくり」等の重点方針を踏まえ、これまでの教育投資を子どもたちの確かな成長へつなげるための「成果の可視化」と「出口戦略」について問う。 ・具体的には、英検・ＴＯＥＩＣの受験料補助制度の導入、ＩＣＴ 環境を活用した海外パートナー校とのオンライン草の根交流から、将来的な村独自の留学・ホームステイプログラムへの展開など、これからの時代にふさわしい英語教育・国際教育の具体化に向けたビジョンについての見解を問う。	教育長 ・ 村　長
	人口減少社会を見据えた予防型福祉施策と組織体制の構築について	・本村の高齢化および人口減少への対応が急務となる中、これからの地域福祉には、問題発生後に対応する個別支援に留まらず、「困る前に地域で支える予防型福祉」への構造転換と、効率的かつ柔軟な仕組みづくりが求められている。村民にとってより身近で、迅速かつ柔軟に対応できる組織体制をどのように構築していくのか。 ・特に、高齢者の見守りや介護予防体制の強化、現場の声を素早く施策へ反映させる体制づくりを含め、今後の福祉行政にかける方針と意気込みを問う。	村　長